

いま求められています あなたのボランテニア活動

ボランテニア活動は災害時の活動や日ごろの生活の助け合いをはじめ、いろいろな分野へ広がりを見せています。そのような中でさまざまなボランテニア活動に関心を持つ皆さんから相談や情報などの窓口を一つにという声があることから、昨年の九月二十九日にボランテニア活動推進会議が発足しました。今回は、広がりをもてるボランテニア活動とボランテニア推進会議が進めている活動の内容について紹介します。

ボランテニアとは

ボランテニアは 自発的な活動

「ボランテニア」という一般的な言葉は「奉仕」という言葉が思い浮かびます。「volunteer」という言葉は、日本語では志願者、篤志家、奉仕者と表現されますが、「自ら進んで社会事業などに参加する人」という意味もあります。「volunteer」の語源はラテン語の「volō(ウオロ)」から生まれ、その意味は「意志・志」を表します。このことからボランテニア活

動とは、自発的な活動であり、義務でも強制でもありません。個人個人の自由な意志により、考え、行動していくものです。ただ個人の意志により行動するといっても、自己の利益を目的とするものでなく、「利他性」が求められる、その活動や目的が社会にあつたもの、社会のためになるものである必要があります。また、基本的に無償であることや継続性という要件も求められません。近年では、ボランテニア活動は、さまざまな領域や分野で活発になり、自発的な社会貢献活動として定着しつつあります。

広がるボランテニア活動

市民による自主的な社会 問題への取り組み

社会は生活の豊かさを求める時代から心の豊かさを求める時代へと変化し、同時に国を中心とする中央集権的な社会から地方を中心とする分権社会へと大きく移行しようとしています。分権社会の主役は市民です、市民の果たすべき役割は、ますます重要になってくるものと思われまふ。市民は、今まさにまちづくりの担い手としてその力を養い、「自ら

のまちは自らの手で」と、これからの社会に積極的に参画していくことが求められています。ボランテニア活動の目的は、自分自身の生活する社会において起こる社会問題や課題に対して、自分自身が自発的・主体的にその問題を解決していくこととするものです。またこの活動を通して市民自らが人間の尊厳を認め合い、参加と創造の喜びを得るとともに、より高い福祉や文化のあり方を学び、あるいは伝えあつて、「共に補完し、共に生きる」新たな地域社会の形成が期待されています。

ボランテニア活動推進会議が発足

ボランテニア活動推進会議は、ボランテニア活動を推進するための情報の共有を図り、関係機関の連携を強化するとともに今後の推進体制を調査研究するため、ボランテニア活動推進関係機関の職員を構成員として設置されました。

推進会議は、市教育委員会、市社会福祉協議会、まちづくり市民協会のセンタースタッフなどボランテニアが中心となり、会議の事業を円滑に推進するため、月一回の定例会をはじめ必要に応じて臨時会を開

催しています。七月二日には先進地視察として、大阪ボランテニア協会を訪問し、ボランテニアの養成をはじめ、ボランテニア活動を推進するための組織とその機能などについて研修しました。今後、推進会議では、ボランテニア活動普及啓発活動として、ボランテニアニュースの発行や講演会の開催をするほか、ボランテニアを養成するための各種ボランテニア講座を開設してまいりますので、皆さんの参加をお待ちしています。

防災講演会

防災力のある地域づくりのために

今日本では、地震や洪水の被害に相次いで見舞われています。こうした災害はいつわたしたちの身に起こるか分かりません。そして、災害が起こるのを防ぐことはできません。しかし、災害の被害を減らすことはできます。では、いざというときどうしたらよいのでしょうか。また災害の被害を減らすこと、「減災」のためにわたしたちは普段から何をしたらよいのでしょうか。

今回の講演会で、わたしたちの身の回りをもう一度見直して、わたしたち一人一人ができる「減災対策」を考えてみましょう。「自分の生命は自分で守る」ということがまず何より大切なことで、同時に「自分の地域は自分たちで守る」という意識を持つことが「減災対策」の基本であることを学びます。



「自分の地域は自分たちで守る」家具転倒防止ボランティア活動

テーマ 「日常の活動が生きる防災とボランティア」
 と き 8月21日(日)午後1時半～
 ところ 恵那文化センター集會室
 講 師 池上三喜子(東京防災指導協会調査研究専門委員・東京防災ボランティアセンター副会長)
 主 催 恵那市ボランティア活動推進会議
 共 催 恵那市・市教育委員会・市社会福祉協議会・市まちづくり市民協会
 問い合わせ 市まちづくり市民協会 ☎ 20-0657

モノの豊かさからココロの豊かさへ

ボランティア入門講座

受講生募集

人としての存在価値を高めたい、心の豊かさを求める方、仲間づくりなど一緒にボランティア活動について、学びましょう。

対象者 講座全過程を受講できる方(18歳以上)
 定員 25人程度
 受講料 全過程1人1,000円(ボランティア保険含む)
 場所 市共同福祉会館2階研修室
 締め切り 8月31日(水)

応募方法 住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、市まちづくり市民協会へ直接又は郵送、FAXでお申し込みください。(電話でも可)
 応募・問い合わせ 市まちづくり市民協会
 〒509 7203 恵那市長島町正家一丁目5番地13(市共同福祉会館内) ☎ 20-0657 ☎ 20-0658

| 日 時 | 講 座 ・ 内 容 | 講 師 など |
|------------------------|----------------------------------|------------------------|
| 9月10日(土) 午後1時半～3時半 | ボランティアそもそも論 | 市まちづくり市民協会 センタースタッフ |
| 9月17日(土) 午後1時半～3時半 | 身近な生活や地域社会における課題・問題点 | みんなでフリートーク |
| 10月22日(土) 午後1時半～3時半 | ボランティア活動の体験発表 活動体験：9月下旬～10月中旬 | 市まちづくり市民協会 センタースタッフ |
| 11月5日(土) 午後1時半～3時半 | 新たな地域社会の形成 ～これからのボランティア活動 | 市まちづくり市民協会 センタースタッフ |
| 11月12日(土) 午後1時半～3時半 | ワークショップで描くわたしたちのまち | 市まちづくり市民協会 センタースタッフ |

ちょっとインタビュー



自然に助け合える
ことが大切
露木 淳子 さん
(大井町土ヶ根)

ボランティアは助け合うこと、ちょっとした心遣いだと思っています。

中山道かたりべの会やトコトコボンちゃん観光ボランティアガイドをしています。おもしろかったとか、また来たいと言ってもらえるようなガイドを心掛けています。お礼の手紙をもらったり、その手紙をくれた人がまた来てくれたりした時は、本当にうれしいと感じました。

かたりべなども若い人、次の世代につなげていくことが課題となっています。以前どこかで子供たちが、古い建物を天井の係、ふすまの係など分担を決めて4人が組になり説明をしていました。恵那市もひし屋資料館など子供たちに覚えてもらうといいと思います。住んでいる町や物を大切にしたり、地域のこと好きになったり、次の世代の育成につながるのでは、と思います。

現在は父子家庭のおじいちゃん、おばあちゃんたちに、今の時代の子育て(孫育て)についての話をする機会、仲間作りや情報交換できる場を作ろうと考えています。何かをしてあげたのではなく、やれることをやっているということで、自然体でいきたい。



ボランティアは
趣味のようなもの
野田 光子 さん
(大井町岡瀬)

ボランティア活動は特に意識しているわけではなく、自分がいいと思うことをしたり、みんなで助け合ったりすることが、ボランティアでいいのかなと思います。

最初は学校の本の読み聞かせボランティアに参加したのがきっかけで、図書館の読み聞かせサークルや、まちづくり市民協会を知り、いろんな活動をしている方がいることを知りました。そんな中で自然に、みんなと一緒に何かしたいという気持ちで、活動をするようになり、今では趣味という感じです。

子供を持つお母さんのグループ「eネット」では、恵那市のこと、子育てのことを勉強したり、恵那や近隣の学童保育所を見学したりしました。またアンケートをして子供たちが家でゲームをしている時間が多いこと、自分たちの頃のように外で遊ぶことが少ないことが分かりました。そこで学校の放課後に読み聞かせをしたり、一緒に遊んだり、何か手作りしたりという活動を計画して仲間づくりをしています。

現在、県の子育てサポーターの認定を受けるため養成講座に参加していますが、このような活動ができるのも主人のおかげと感謝しています。



ボランティアは
身近な生活の中に
曾我 龍一 さん
(武並町藤)

ボランティア活動を一言で言えば生活の一部という感じです。ボランティアは自分の身近な生活の中にあると思いますが、気付いていない人が多いと思います。

ボランティア活動は、難しく考えるのではなく、自分がやって楽しいことやほかの人が喜んでくれることです。現在は、まちづくり市民協会や地域づくりの「ハンズ武並」、朗読の会「どんぐり」をはじめ、軽スポーツ、青少年育成などで活動しています。

ボランティアのきっかけは、近所の人に誘われ地域の子供に映画を見せて遊ばせたこと。その後活動が広がり、小・中学生をはじめ、いろんな人と知り合いになりました。そういう係わりの中から、いろんなことを得ることができたので、人のつながりは大切だと思っています。

今自分が主に取り組んでいるのは「ハンズ武並」です。年間70日から90日活動していますが、活動費の財源や、メンバーの高齢化が悩みで、次へつなげていくことが課題です。

今後は、ハンズ武並で、高齢者から子供まで触れ合える場を作り、この冬にオープンするスケート場などを活用して活動を進めていきたい。